

# 日興・アッシュモア・グローイング・マルチストラテジー・ファンド 〈愛称 ネクスト・スター〉

追加型投信／海外／資産複合

## 交付運用報告書

第42期(決算日2017年9月19日)

第43期(決算日2017年12月18日)

作成対象期間(2017年6月20日～2017年12月18日)

第43期末(2017年12月18日)	
基準価額	10,799円
純資産総額	4,247百万円
第42期～第43期	
騰落率	5.3%
分配金(税込み)合計	60円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

右記URLにアクセス ⇒ ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示 ⇒ 運用報告書タブを選択 ⇒ 該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「日興・アッシュモア・グローイング・マルチストラテジー・ファンド」は、2017年12月18日に第43期の決算を行ないました。

当ファンドは、主として、新興国の様々な資産に投資を行なう投資信託証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なってまいりました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

## 日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号  
http://www.nikkoam.com/

当運用報告書に関するお問い合わせ先

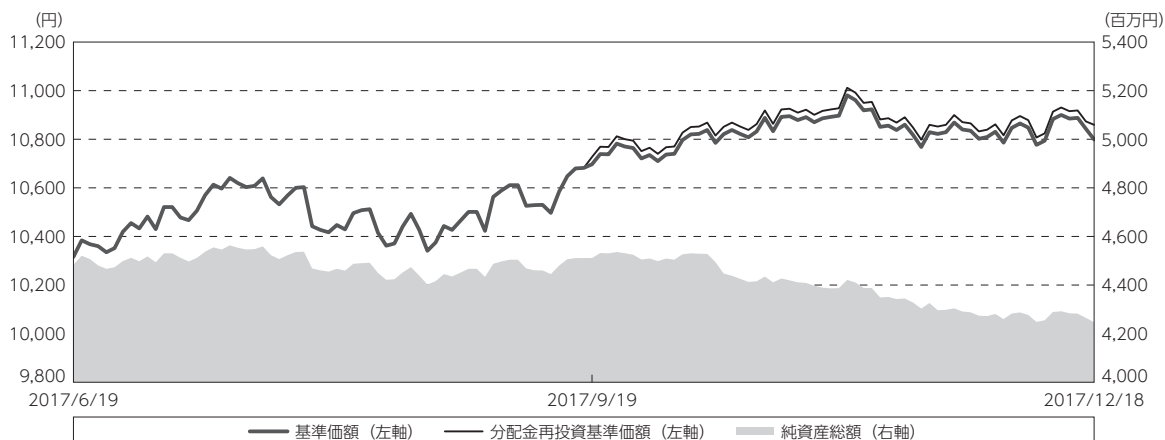
コールセンター 電話番号：0120-25-1404  
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

## 運用経過

## 作成期間中の基準価額等の推移

(2017年6月20日～2017年12月18日)



第42期首：10,316円

第43期末：10,799円 (既払分配金(税込み)：60円)

騰落率：5.3% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。  
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額は、作成期首(2017年6月19日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

## ○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、新興国の様々な資産に投資を行なう投資信託証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

## &lt;値上がり要因&gt;

- ・世界同時並行的な景気拡大、金利市場の安定、米ドル安を受けて、新興国株式・為替・債券市場が上昇したこと。
- ・投資有価証券から分配金・利息収入を得たこと。
- ・円安/米ドル高が進行したこと。

## &lt;値下がり要因&gt;

- ・エネルギー・資源企業向け投融資の一部が大きく下落したこと。
- ・ベネズエラの国債および石油公社債が値下がりしたこと。

## 1万口当たりの費用明細

(2017年6月20日～2017年12月18日)

項 目	第42期～第43期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	55	0.512	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率
( 投 信 会 社 )	(16)	(0.151)	委託した資金の運用の対価
( 販 売 会 社 )	(37)	(0.345)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
( 受 託 会 社 )	( 2 )	(0.016)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	2	0.018	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
( 監 査 費 用 )	( 0 )	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
( 印 刷 費 用 )	( 2 )	(0.015)	印刷費用は、法定開示資料の印刷に係る費用
合 計	57	0.530	
作成期間の平均基準価額は、10,653円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

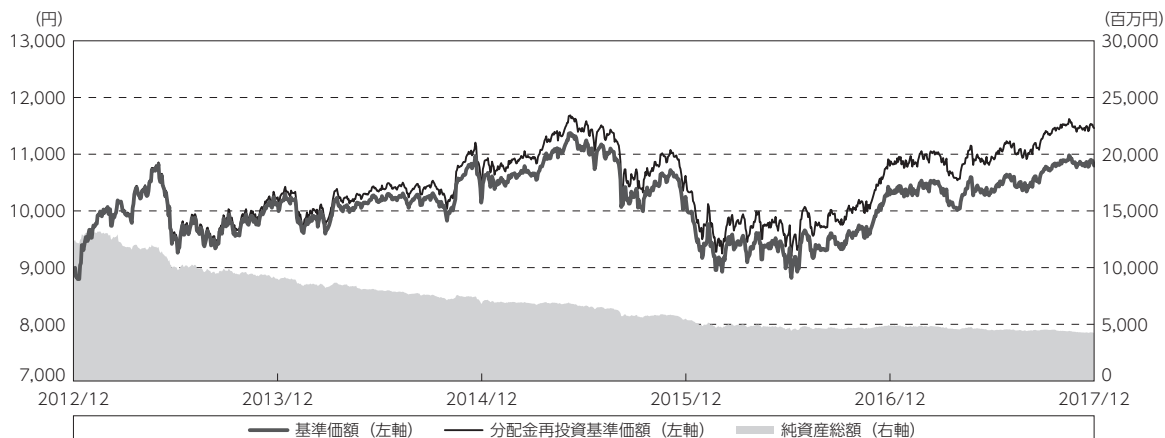
(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注) この他にファンドが投資対象とする投資先においても信託報酬等が発生する場合があります。

## 最近5年間の基準価額等の推移

(2012年12月17日～2017年12月18日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。  
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。  
 (注) 分配金再投資基準価額は、2012年12月17日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2012年12月17日 決算日	2013年12月17日 決算日	2014年12月17日 決算日	2015年12月17日 決算日	2016年12月19日 決算日	2017年12月18日 決算日
基準価額 (円)	8,931	10,116	10,145	10,155	10,382	10,799
期間分配金合計(税込み) (円)	—	120	120	120	120	120
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	14.7	1.5	1.2	3.5	5.2
純資産総額 (百万円)	12,304	9,002	6,798	5,442	4,902	4,247

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。  
 (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。  
 (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。  
 (注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

**投資環境**

(2017年6月20日～2017年12月18日)

**(新興国株式市況)**

新興国株式は当期間、上昇しました。世界景気は同時並行的に加速しました。ブラジルやロシアなどの新興国に加え、欧州景気が拡大色を強めるなど先進国も上向き、世界景気は総じて好調でした。金利市場では、連続利上げが続き、量的緩和策の縮小も開始された米国において、金利が落ち着いた値動きを示しました。また為替市場では主要通貨に対して米ドルが弱含みました。一方、北朝鮮の核・ミサイル問題による市場への悪影響は短期的かつ限定的なものとなりました。ファンダメンタルズ（経済の基礎的条件）の改善、米国金利・為替市場の安定、および特段大きなネガティブサプライズが見当たらなかったことを好感じ、新興国株式は期間を通じてほぼ右肩上がりの上昇となりました。国別では、ハイテク企業や保険株を中心に中国銘柄の上昇が顕著でした。

**(新興国債券市況)**

新興国債券市場は上昇しました。主要新興国におけるファンダメンタルズの改善、米国金利の落ち着いた動き、および投資資金の流入を受けて、新興国債券市場は期間の初めから期間の半ばにかけて上昇しました。期間の半ばから期間末にかけては、上昇後のバリュエーション（利回り水準）への警戒感が高まったこともあり、小動きとなりました。多くの新興国債券が上昇するなかで、ベネズエラの債券は固有の要因により大きく下落しました。マドゥロ大統領による強権的な政権運営が続くなかでも、ベネズエラの国債および石油公社債の元本とクーポンの支払いは継続されていますが、米国の制裁の影響もあり、決済機関経由で支払いが処理・確認されるために要する時間が長期化しており、ベネズエラの国債は「選択的デフォルト」に格下げされました。

**(国内短期金利市況)**

無担保コール翌日物金利は、期間の初めの-0.06%近辺から、日銀によるマイナス金利政策の下でコール市場でもマイナス圏での取引が続き、-0.05%近辺で期間末を迎えました。

国庫短期証券（TB）3ヵ月物金利は、期間の初めの-0.10%近辺から、日銀による国債買入れの継続や追加の金融緩和観測などを受けてマイナス圏での推移が続き、-0.18%近辺で期間末を迎えました。

**(為替市況)**

新興国通貨は上昇しました。新興国株式、債券市場と足並みを揃える形で、新興国通貨も上昇基調を維持しました。国別のパフォーマンスには大きなばらつきがありました。欧州景気が回復色を強め、ユーロが続伸したことから、欧州先進国との政治・経済的な結びつきの強いポーランド、チェコ、ハンガリーなどの中東欧諸国の通貨が好調でした。中国経済・市場の安定を受けて韓国や東南アジア通貨も堅調でした。対象的に、トルコリラは売り込まれました。エルドアン大統領による中央銀行への圧力が続いたことに加え、相互にビザの発給を停止するなど、米国とトルコの関係が悪化したことが材料視されました。

## 当ファンドのポートフォリオ

(2017年6月20日～2017年12月18日)

## (当ファンド)

当ファンドは、収益性を追求するため、「アッシュモア・グローイング・マルチストラテジー・ファンド・リミテッド クラスB」投資証券を高位に組み入れ、「マネー・オープン・マザーファンド」受益証券への投資を抑制しました。

## (アッシュモア・グローイング・マルチストラテジー・ファンド・リミテッド クラスB)

新興国市場の債券、株式を中心とした幅広い投資テーマの資産を投資対象とし、各投資テーマへの資産配分を積極的に行ない、様々な投資機会を活用しました。

米ドル建て新興国債券を中心としたポートフォリオ構成を維持しました。資産別の配分は、期間の初めの構成を概ね維持しました。

期間中、スペシャル・シチュエーションの組入れはありませんでした。

## (マネー・オープン・マザーファンド)

運用の基本方針に従い、国庫短期証券の購入や現先取引、コールローンや金銭信託などを通じて、元本の安全性を重視した運用を行ないました。

## 当ファンドのベンチマークとの差異

(2017年6月20日～2017年12月18日)

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

## 分配金

(2017年6月20日～2017年12月18日)

分配金は、基準価額水準、市況動向などを勘案し、以下のとおりいたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

## ○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項 目	第42期	第43期
	2017年6月20日～ 2017年9月19日	2017年9月20日～ 2017年12月18日
当期分配金	30	30
(対基準価額比率)	0.280%	0.277%
当期の収益	—	24
当期の収益以外	30	5
翌期繰越分配対象額	1,001	1,000

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針

### (当ファンド)

引き続き、「アッシュモア・グローイング・マルチストラテジー・ファンド・リミテッド クラスB」投資証券を原則として高位に組み入れ、「マネー・オープン・マザーファンド」受益証券への投資を抑制する方針です。

### (アッシュモア・グローイング・マルチストラテジー・ファンド・リミテッド クラスB)

新興国市場の先行きにおける課題の一つが、バリュエーションです。2016年3月以来続く上昇局面を経て、新興国市場が以前ほどには割安でなくなっているのは確かです。しかしながら、新興国市場は、一足先に騰勢を強めていた先進国市場対比では依然として魅力があり、更なる上昇余地が残されていると考えられます。また、世界景気が好調である時に新興国市場は買われやすいという点も指摘されます。フロー面に目を転じると、投資資金の純流入が続いていますが、2016年初までの数年間に巨額の資金が新興国市場より流出していた事実を踏まえると、2018年には資金流入が加速することが予想されます。ファンダメンタルズ面では、経常収支の改善が主たるドライバーである現局面から、より持続性のある内需主導の景気拡大に移行する新興国が増加するとみられます。これらの点を総合すると、新興国市場の先行きは明るいものであるとみています。

新興国市場における「米ドル建て債券」、「現地通貨建て債券」、「株式」といった一般的な運用戦略を重視する方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

### (マネー・オープン・マザーファンド)

引き続き、安定した収益の確保をめざして安定運用を行なう方針です。主要投資対象は、わが国の国債および格付の高い公社債とし、それらの現先取引なども活用する方針です。また、コールローンや金銭信託などに投資することもあります。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## お知らせ

2017年6月20日から2017年12月18日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

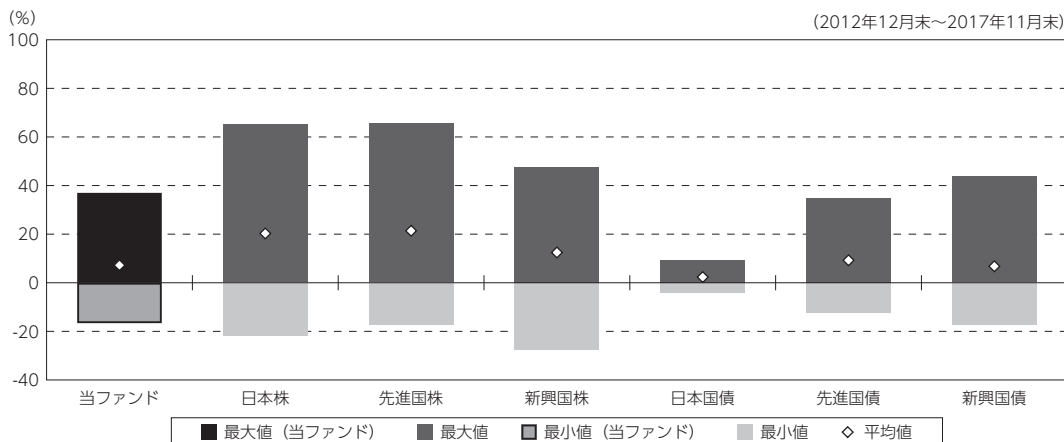
## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／資産複合
信託期間	2007年4月27日から2022年6月17日までです。
運用方針	主として投資信託証券（投資信託または外国投資信託の受益証券（振替投資信託受益権を含みます。）および投資法人または外国投資法人の投資証券をいいます。）に分散投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	「アッシュモア・グローイング・マルチストラテジー・ファンド・リミテッドクラスB」投資証券 「マネー・オープン・マザーファンド」受益証券 上記の投資信託証券を主要投資対象とします。
運用方法	主として、新興国の様々な資産に投資を行なう投資信託証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざします。新興国市場における「米ドル建て債券」、「現地通貨建て債券」、「株式」といった一般的な運用戦略に加え、信用度の改善に着目した「スペシャル・シチュエーション」など複数の戦略（マルチストラテジー）を活用します。
分配方針	毎決算時、原則として分配対象額のなかから、基準価額水準、市況動向などを勘案して分配を行なう方針です。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。



## (参考情報)

## ○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	37.0	65.0	65.7	47.4	9.3	34.9	43.7
最小値	△ 16.6	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4
平均値	7.2	20.3	21.4	12.5	2.3	9.3	6.8

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2012年12月から2017年11月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

## 《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX、配当込)

先進国株：MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JP モルガン GBI-EM グローバル・ディバーシファイド (円ヘッジなし、円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

## 指数について

●東証株価指数 (TOPIX、配当込) は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、東京証券取引所に帰属します。●MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc. が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。●MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc. が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。●NOMURA-BPI 国債は、野村證券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いて行われる日興アセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。●シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、Citigroup Index LLC が開発した、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、Citigroup Index LLC に帰属します。●JP モルガン GBI-EM グローバル・ディバーシファイド (円ヘッジなし、円ベース) は、J.P. Morgan Securities LLC が算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLC に帰属します。

## 当ファンドのデータ

## 組入資産の内容

(2017年12月18日現在)

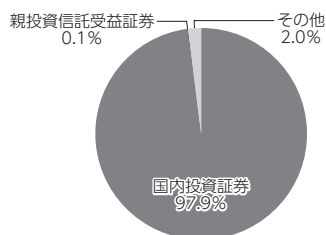
## ○組入上位ファンド

銘柄名	第43期末
	%
アッシュモア・グローイング・マルチストラテジー・ファンド・リミテッドクラスB	97.9
マネー・オープン・マザーファンド	0.1
組入銘柄数	2銘柄

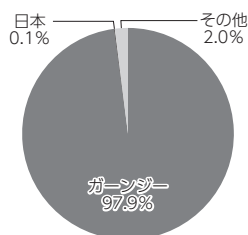
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

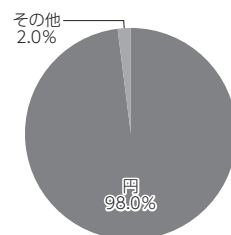
## ○資産別配分



## ○国別配分



## ○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 国内投資証券には外国籍(邦貨建)の投資証券を含めております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

## 純資産等

項目	第42期末	第43期末
	2017年9月19日	2017年12月18日
純資産総額	4,510,989,291円	4,247,325,717円
受益権総口数	4,216,991,323口	3,933,147,424口
1万口当たり基準価額	10,697円	10,799円

(注) 当作成期間(第42期~第43期)中における追加設定元本額は18,940,359円、同解約元本額は432,106,308円です。

## 組入上位ファンドの概要

## アッシュモア・グローイング・マルチストラテジー・ファンド・リミテッド クラスB

## 【基準価額の推移】

(2016年5月1日～2017年4月30日)



(注) グラフは分配金再投資基準価額です。

## 【1万口当たりの費用明細】

(2016年5月1日～2017年4月30日)

当該期間の1万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載していません。

## 【組入上位10銘柄】

(2017年4月30日現在)

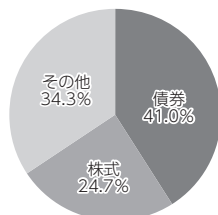
	銘柄名	業種 / 種別等	通貨	国(地域)	比率
					%
1	Alibaba Group Holding Ltd ADR	株式	アメリカドル	中国	2.5
2	Met invest BV 9.3725% PIK	債券	アメリカドル	ウクライナ	1.9
3	DTEK Finance PLC 10.75% FRN PIK	債券	アメリカドル	ウクライナ	1.6
4	Tencent Holdings Ltd	株式	香港ドル	中国	1.3
5	Catcher Technology Co Ltd	株式	台湾ドル	台湾	1.3
6	Taiwan Semiconductor Manufacturing Co Ltd	株式	台湾ドル	台湾	1.2
7	Maruti Suzuki India Ltd	ワラント	アメリカドル	インド	1.2
8	China Construction Bank Corp Class H	株式	香港ドル	中国	1.1
9	Naspers Ltd Class N	株式	南アフリカランド	南アフリカ	1.1
10	Samsung Electronics Co Ltd GDR	株式	アメリカドル	韓国	1.0
	組入銘柄数		182銘柄		

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

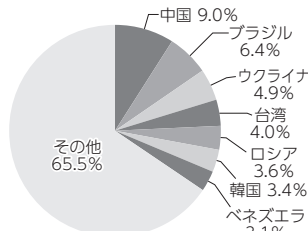
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

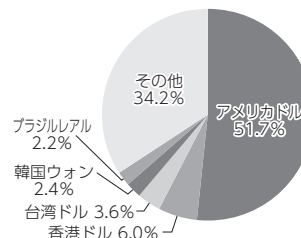
## 【資産別配分】



## 【国別配分】



## 【通貨別配分】



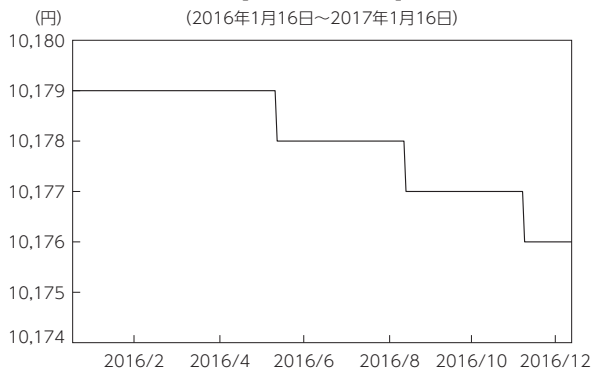
(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

マネー・オープン・マザーファンド

【基準価額の推移】

(2016年1月16日～2017年1月16日)



【1万口当たりの費用明細】

(2016年1月16日～2017年1月16日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
	円	%
(a) そ の 他 費 用 ( そ の 他 )	0 (0)	0.000 (0.000)
合 計	0	0.000

期中の平均基準価額は、10,178円です。

- (注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。  
 (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。  
 (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

組入資産の内容

(2017年1月16日現在)

2017年1月16日現在、有価証券等の組入れはございません。